

墨日記

新潟県書道会 夏号
 新潟市秋葉区書道町2-12-5
 菅井松雲(義隆)
 TEL・FAX 0250(24)8074

新潟県内の書道愛好者団体の年一回の展覧会です。約二五〇点の大小の作品が陳列されます。ぜひお見学をおすすめします。



(昨年の解説会の様子)

会場の関係で例年より少し遅いですが第77回松雲書道会墨雲展が新津美術館で開催されます。ようやく少しづつ夏の規制も緩和され多くの観覧者に見て頂きたいと思っております。お知り合ご家族友人等にもお知らせ頂きたいと存じます。第一回、一般から学生まで全員の作品は圧巻です。どうぞお出かけ下さい。県内最大規模の社中展だと自信をもってご紹介いたします。



昨年の会場風景 一般、学生作品約500点の作品が展示されました

墨雲展

奨励賞 小林桐花
 入選 菅井松雲
 田中梨風

漢詩続け書きで初入賞

表現の引き出しを増やそうと、文字をつなげて書く連続漢詩に挑戦した。苦手意識を持っており「四苦八苦した」が、小学生の頃から師事する書家に支えられ、書き上げた。完成させた作品に「満足することはない」と言い切る。だからこそ、「いつも『こうすればよかった』が残るから、長い間書道が続けられた」と振り返る。



も先生に作品を見てもらうときは緊張する。そんな新鮮な気持ちを持ったまま、長く続けていきたい」と先を見据えた。

書道・奨励賞 暑早苦熱 新潟市中央区 沼垂東二

小林 桐花さん(52)

漢詩の連続書きで初入賞を達成した小林桐花さんの書道作品の展示風景

県展奨励賞をいただいて

小林 桐花

この度は、第77回県展において奨励賞を受賞することができ大変感謝しております。県展という難関にて賞を頂くことができたことは、菅井先生のご指導のおかげです。作品制作をスタートしてから5月の全体練成会の締め切りまで、なかなか進まない状態を先生より導いていただきました。先生は平日頃より、私共の書いている様子や作品添削の際に、今何が必要なのかを「特効薬」を処方してくださいます。それは筆の動きやスピード感、墨色やかすれの美しさなどその時その人に最も必要な事、そして書くことに対するモチベーションまで高めてくださいます。今回の作品制作過程において、締め切り日が近づいているにもかかわらず作品連弩が上がらずにいた状態を見て、先生からのお話の中で喝をもらいました。ようやくラストスパートを切ることができ、ゴールデンウイークの中で形が見えてきた状態でした。限られた時間の中で、今自分にできることに集中することができました。

県展会場は7部門千点以上の作品が陳列されていました。その会場内において表彰式が行われ、緊張で足のすくむ思いの中で賞を頂きました。その重み、責任感がこみ上げてきました。

菅井先生これからも書に向き合い、精進してまいりたいです。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

第43回 松雲書道会

墨雲展

入場無料

令和5年 7月27日(木) - 30日(日)
 午前10時～午後5時 ※最終日は午後3時まで

会場 新潟市新津美術館 1F 市民ギャラリー
 〒956-0846 新潟県新潟市秋葉区溝ヶ沢109番地1
 TEL 0250-25-1300

後援 毎日新聞社 新潟日報社 玄和書道会 新潟県美術家連盟 新潟県書道協会 ラジオチャット FM にいつ 主催 松雲書道会 代表 菅井松雲 TEL・FAX 0250-24-8074

会員の研鑽と、相互親睦を深める為に年1回開催しております社中展です。ぜひ皆様おそろいで、どうぞお時間の許す限りご高覧賜りますようお願い申し上げます。

第36回

新潟県書道協会 会員展

併催 私に関わりのあった先人の書展

会期 令和5年 7月21日(金)～7月24日(月)
 午前9時～午後5時(但し初日10時開会) 最終日は3時まで

会場 新潟県民会館 (3階 ギャラリー)

主催 新潟県書道協会 (事務局 ☎ 0256-87-3264 FAX 050-3588-7588)
 後援 新潟県・新潟市・新潟県美術家連盟・新潟日報社・朝日新聞新潟総局・産経新聞新潟支局・毎日新聞新潟支局・読売新聞新潟支局・BSN新潟放送・NST新潟総合テレビ・TeNYテレビ新潟・UX新潟テレビ21

当会出品者 菅井松雲・中村秀月(道巻委員) 藤田南龍・灰野紅舟・田中梨風

印のお手入れ

皆さんの展覧会作品に落款印を鈴印していて気になることがあります。それは印面の刻線に拭い切れなかった印泥のカスが詰まっていることです。このような状態になると刻線の「鋭さ」や「キレ」が無くなり、印泥のノリも悪く、ぼやけた印になってしまいます。今回は家庭にある道具で簡単にできる印のお手入れ方法をご紹介しますので、是非参考してみてください。

画像は私が最近購入した古印材の印影で、前の所蔵者の手入れが甘く、印面に印泥がビッシリとへばりついていました。これを掃除していきます。

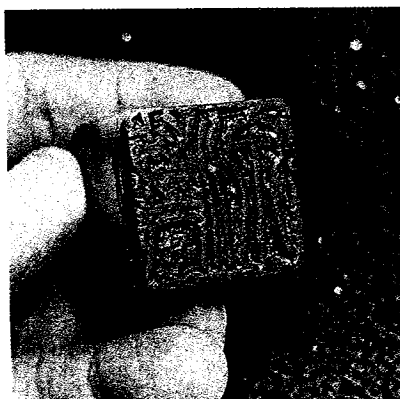
使う道具は「台所用洗剤」と「柔らかめの歯ブラシ」の二つです。



①「大浦藤印」。刻線が詰まって「浦」「印」の線が消えている。



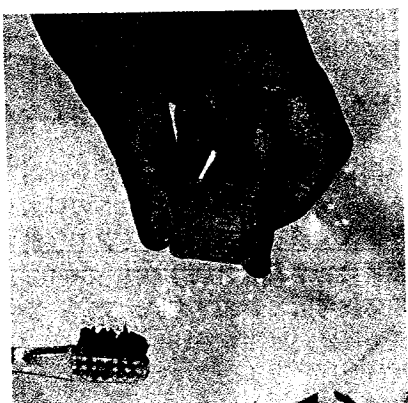
②「澄泉（激泉）」。こちらも印泥が固まったことによって、線が太ってぼやけている。



③ 長年放置されていたのか、印泥が完全に乾いていてタオルで拭いても取れない。



④ 印面に洗剤をかけ、角度を変えながら歯ブラシで優しくこする。印泥は油なので洗剤が効果的。印材や印面に傷が付かないよう硬いタワシなどは厳禁。



⑤ 洗剤を洗い流してチェック。なかなか落ちなかったので、洗剤に印面を浸して10分ほど放置。もう一度歯ブラシで洗う。



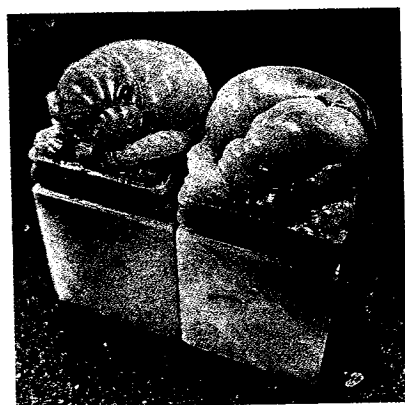
⑥ 洗い終わった印面。



⑦ 綺麗に洗い終わった後の印影。消えていた線も蘇った。



⑧ 刻線の際にへばりついていた印泥が無くなったことによって線のキレが出た。



⑨ 最後に、石印材の艶出しや保湿の為、油を塗って磨く。これを「油養」と言う。中国の印材業者は「白茶油」という油を使うが、ベビーオイルで代用できる。